



2022年10月12日

各 位

会社名 カネコ種苗株式会社  
代表者名 代表取締役社長 金子 昌彦  
(コード：1376、東証スタンダード)  
問合せ先 専務取締役管理部門・コンプライアンス・  
IT推進担当 長谷 浩克  
(TEL 027-251-1619)

(訂正・数値データ訂正) 「2023年5月期 第1四半期決算短信[日本基準](連結)」の一部訂正について

当社は、2022年10月7日に開示いたしました「2023年5月期 第1四半期決算短信[日本基準](連結)」の一部を訂正いたしましたので、お知らせいたします。

また、数値データにも訂正がありましたので訂正後の数値データも送信いたします。

株主および投資家をはじめとするステークホルダーの皆様に対し、多大なるご迷惑とご心配をおかけいたしますことを謹んでお詫び申し上げます。

## 記

### 1. 訂正の経緯及び理由

当社は種子の生産販売を事業の主力として行っており、種子生産の原価計算を基幹のコンピュータシステムの一部で行っております。種子生産の途上でかかったコストは、一旦仕掛品扱いとして資産計上し、種子生産が終了した時点で完成品として別の資産項目に振替える処理を行っております。

その振替え処理の際、コンピュータプログラム及び条件設定の誤りにより、コストの一部が仕掛品扱いと完成品に二重で資産計上されるミスが発生しました。

当該ミスにより、貸借対照表上に商品が過大に計上され、それに連動して売上原価が過少となり、各利益金額が過大に計上されたものであります。

### 2. 訂正の箇所

訂正箇所は\_\_\_\_\_線を付して表示しております。なお、訂正箇所が多数に及ぶことから訂正事項については、訂正後のみ全文を記載しております。

以 上

(訂正後)



## 2023年5月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年10月7日

上場会社名 カネコ種苗株式会社 上場取引所 東  
コード番号 1376 URL <http://www.kanekoseeds.jp>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 金子 昌彦  
問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理部門・コンプライアンス・IT推進担当 (氏名) 長谷 浩克 TEL 027-251-1619  
四半期報告書提出予定日 2022年10月13日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年5月期第1四半期の連結業績(2022年6月1日~2022年8月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年5月期第1四半期	14,577	1.0	291	△7.8	340	△4.1	224	△4.4
2022年5月期第1四半期	14,439	△1.4	315	△7.3	355	△5.5	235	△9.6

(注) 包括利益 2023年5月期第1四半期 270百万円 (△10.2%) 2022年5月期第1四半期 301百万円 (△21.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年5月期第1四半期	19.44	—
2022年5月期第1四半期	20.17	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年5月期第1四半期	43,940	22,706	51.7	1,961.77
2022年5月期	48,932	22,645	46.3	1,956.51

(参考) 自己資本 2023年5月期第1四半期 22,706百万円 2022年5月期 22,645百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年5月期	—	11.00	—	18.00	29.00
2023年5月期	—	—	—	—	—
2023年5月期(予想)	—	11.00	—	18.00	29.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2023年5月期の連結業績予想(2022年6月1日~2023年5月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
通期	61,500	1.3	1,850	0.8	1,950	2.1	1,250	△4.0	108.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 ー社（社名）、除外 ー社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（注）詳細は、添付資料P. 6「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年5月期1Q	11,772,626株	2022年5月期	11,772,626株
② 期末自己株式数	2023年5月期1Q	198,218株	2022年5月期	198,197株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年5月期1Q	11,574,418株	2022年5月期1Q	11,666,078株

（注）期末自己株式数は、「株式給付信託（BBT）」が保有する当社株式（2023年5月期1Q 66,600株、2022年5月期 66,600株）が含まれております。また、「株式給付信託（BBT）」が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。（2023年5月期1Q 66,600株、2022年5月期1Q 72,400株）。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	3
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	4
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	4
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	6
(継続企業の前提に関する注記) .....	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	6
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	6
(会計方針の変更) .....	6
(セグメント情報) .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間（2022年6月1日～2022年8月31日）におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が続くなか、行動制限緩和による経済活動正常化の傾向はみられるものの、世界的な資源価格の値上がり、物流コストの高騰や円安が大幅な物価上昇を招くなど、大変厳しい状況となりました。

国内農業の状況は、少子高齢化による食料消費の減少や農家の後継者不足等の従前からの課題に加え、資源・穀物価格高騰に伴う肥料・飼料・資材の値上がり、農家経営を圧迫する事態が続いております。

このような状況のなか当社グループの業績は、種苗事業等の販売が伸長したことから、売上高145億77百万円で前年同期比1億37百万円（1.0%）の増収となりました。利益面では、減価償却費の増加などにより、営業利益2億91百万円で前年同期比24百万円（7.8%）減、経常利益3億40百万円で前年同期比14百万円（4.1%）減、親会社株主に帰属する四半期純利益2億24百万円で前年同期比10百万円（4.4%）減となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### 種苗事業

種苗事業においては、野菜種子関係でタマネギが輸出・国内販売ともに増加、キャベツやトマトの輸出も好調に推移したことなどにより増収となりました。また、野菜及び牧草種子の販売金額が円安によりかさ上げとなり、売上高21億44百万円で前年同期比7.8%の増収となりました。利益面でも、セグメント利益3億79百万円で前年同期比14.9%増となりました。

#### 花き事業

花き事業においては、営利栽培農家向けにユーストマ種子の販売が増加したものの、コロナ禍の巣ごもり需要の反動減や、一部商品の販売ルートが他社に移ったことなどにより、売上高16億27百万円で前年同期比9.4%の減収となりました。利益面では、採算性の改善や業務効率化などにより、セグメント損失17百万円（前年同四半期のセグメント損失は54百万円）で損失は縮小いたしました。

なお、当事業は春に需要期を迎えることに伴い、第4四半期に売上高及び利益が集中的に計上される傾向があります。例年第3四半期まではセグメント損益はマイナスであります。通期では当該マイナスは解消されております。

#### 農材事業

農材事業においては、農薬価格の値上がりを想定した前倒需要が発生したことなどにより、売上高75億49百万円で前年同期比3.6%の増収となりました。利益面では、物流費の高騰などのコストアップに伴い、セグメント利益1億68百万円で前年同期比8.1%減となりました。

#### 施設材事業

施設材事業においては、農業用ハウス部材関係で値上げによる前倒需要の反動減や、生産者の購買意欲低迷による流通在庫過多などの要因から販売が低迷し、売上高32億56百万円で前年同期比3.4%の減収となり、利益面でも、セグメント利益49百万円で前年同期比30.5%減となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### （資産、負債及び純資産の状況）

当第1四半期連結会計期間末における「資産の部」の残高は、439億40百万円となり、前連結会計年度末と比較して49億92百万円減少いたしました。これは主に受取手形及び売掛金の減少によるものであります。

また、「負債の部」の残高は、212億33百万円となり、前連結会計年度末と比較して50億53百万円減少いたしました。これは主に買掛金の減少によるものであります。

なお、「資産の部」における受取手形及び売掛金の減少、また、「負債の部」における買掛金の減少は、当社グループの事業が主に第4四半期に繁忙期を迎えることに伴うものであり、每期ほぼ同様の状況となっております。

「純資産の部」の残高は、227億円6百万円となり、前連結会計年度末と比較して微増となりました。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年7月12日の「2022年5月期決算短信」で公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

### (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,109,988	3,815,551
受取手形及び売掛金	21,909,529	17,997,837
商品	9,165,220	8,574,768
未収入金	2,025,776	2,816,699
その他	325,594	400,431
貸倒引当金	△21,972	△17,980
流動資産合計	38,514,137	33,587,309
固定資産		
有形固定資産		
土地	3,993,961	4,004,572
その他(純額)	2,624,778	2,578,690
有形固定資産合計	6,618,740	6,583,262
無形固定資産		
	898,471	854,523
投資その他の資産		
その他	2,907,809	2,934,097
貸倒引当金	△6,559	△18,969
投資その他の資産合計	2,901,250	2,915,128
固定資産合計	10,418,461	10,352,914
資産合計	48,932,599	43,940,223
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	22,602,856	15,058,315
短期借入金	—	2,720,000
未払法人税等	250,013	123,741
その他	1,797,473	1,710,610
流動負債合計	24,650,342	19,612,667
固定負債		
退職給付に係る負債	1,292,668	1,295,955
役員株式給付引当金	51,958	56,758
その他	291,847	268,257
固定負債合計	1,636,474	1,620,971
負債合計	26,286,817	21,233,638
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,491,267	1,491,267
資本剰余金	1,765,224	1,765,224
利益剰余金	18,632,298	18,647,758
自己株式	△276,921	△276,956
株主資本合計	21,611,868	21,627,293
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,000,036	1,021,829
為替換算調整勘定	△13,803	7,225
退職給付に係る調整累計額	47,439	49,972
その他の包括利益累計額合計	1,033,673	1,079,027
非支配株主持分	240	263
純資産合計	22,645,781	22,706,584
負債純資産合計	48,932,599	43,940,223

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年6月1日 至 2021年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年6月1日 至 2022年8月31日)
売上高	14,439,974	14,577,928
売上原価	12,180,554	12,401,678
売上総利益	2,259,420	2,176,249
販売費及び一般管理費	1,943,558	1,884,977
営業利益	315,862	291,271
営業外収益		
受取配当金	22,058	29,752
受取家賃	18,427	17,497
為替差益	—	3,120
その他	5,537	4,164
営業外収益合計	46,024	54,535
営業外費用		
支払利息	4,882	4,966
為替差損	1,532	—
その他	298	215
営業外費用合計	6,713	5,181
経常利益	355,172	340,625
特別損失		
固定資産処分損	1,525	4,147
減損損失	5,400	—
特別損失合計	6,925	4,147
税金等調整前四半期純利益	348,247	336,477
法人税等	112,974	111,456
四半期純利益	235,273	225,021
非支配株主に帰属する四半期純利益	23	22
親会社株主に帰属する四半期純利益	235,249	224,998

## (四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年6月1日 至 2021年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年6月1日 至 2022年8月31日)
四半期純利益	235,273	<u>225,021</u>
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	59,227	21,792
為替換算調整勘定	—	21,028
退職給付に係る調整額	6,521	2,532
その他の包括利益合計	65,749	45,354
四半期包括利益	301,022	<u>270,376</u>
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	300,997	<u>270,338</u>
非支配株主に係る四半期包括利益	24	37



(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自2021年6月1日 至2021年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	種苗 事業	花き 事業	農材 事業	施設材 事業	合計
売上高					
外部顧客への売上高	1,989,316	1,795,313	7,283,786	3,371,557	14,439,974
セグメント間の内部売上高又は振替高	13,319	147	—	—	13,466
計	2,002,635	1,795,461	7,283,786	3,371,557	14,453,441
セグメント利益又は損失(△)	330,298	△54,914	182,960	70,789	529,134

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	529,134
全社費用(注)	△213,272
四半期連結損益計算書の営業利益	315,862

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る減損損失)

各報告セグメントに配分していない全社資産において、一部の資産の使用を停止したため、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間において5,400千円であります。

II 当第1四半期連結累計期間(自2022年6月1日 至2022年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	種苗 事業	花き 事業	農材 事業	施設材 事業	合計
売上高					
外部顧客への売上高	2,144,751	1,627,217	7,549,208	3,256,749	14,577,928
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,144,751	1,627,217	7,549,208	3,256,749	14,577,928
セグメント利益又は損失(△)	<u>379,419</u>	△17,819	168,063	49,204	<u>578,866</u>

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	<u>578,866</u>
全社費用(注)	△287,594
四半期連結損益計算書の営業利益	<u>291,271</u>

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。